

平成18年度第2回評価委員会 議事要旨

事 項	意 見
教育研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学部ごとに目玉がいるということ。管理栄養士になれるとか、県や公共団体にこれだけ入っているという実績をきっちりアピールすることで、目的を持った学生が入ってくる。 ・ 大学院での学校教員の派遣研修については、全国的に教職関係の専門職大学院の動きがあるので、情報収集も手抜きなくやって、県大ならではの仕事を極めておいて欲しい。 ・ 文学部研究科の博士課程に関して、大学院は総合化と単独積み上げ型のどちらを目指すのか。また、国立大学や大手私大には大学院大学化を目指すところもできてきているので、検討するときは念頭に置いていただきたい。 ・ 県大では、人づくりをする人と地域づくりをする人を育てて欲しい。 ・ 地域貢献で、県や市町村の行政課題解決に資する研究を推進すると記載してあるので、県の政策評価について、有効な手法の研究をお願いできないか。 ・ 用語については、同じ内容なら一つの用語で統一し、違うなら明確に使い分けをしないと理解が難しくなる。
業務運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 任期制の導入を検討する場合は、大学教員任期法と労働基準法第14条適用の問題を念頭に置いてやっていただきたい。 ・ 法人化は民営化ということでもある。民間なら定年に関係なく大学に必要な人はいてもらうし、そうでない人は辞めてもらう。採用についても、どうしても来て欲しい教授が決められた報酬では迎えられないことがあるかもしれない。 ・ 県の定年退職者を講師として活用すれば、報酬も安くて済み、誇りを持ってやってもらえるのではないか。
財 務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 余剰金の取扱いは、大学のインセンティブに繋がるような仕組みにすることが必要である。活動停滞による余剰金は話にならないが、十分活動して余った分は次の年に大学のために使っていいと思う。それを理由に運営費交付金を切るようではやる気をなくす。 ・ 大学の施設設備の老朽化は、全国や地元の他大学との競争力がそれだけ見劣りするということ。今の豊かな時代、キャンパスがきれいかどうか非常に重視される。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生方はプロの教育者とプロの研究者の両面がある。中期計画では、研究者としては論文発表なりがあるが、教育者としての進捗管理、PDCF サイクルをどうしていくのかが今後の課題になると思う。 ・ 教員の自己評価に加え、大学の方針と個々の教員の評価とをきちんと摺り合わせる必要がある。